リズムと教育（二）

厚生保姆養成所長　小林宗作

二　リズム教育

（一）リズム教育の目的

新しい教育ではリズムが一つの項目となつてとりあげられて來た、小學校以上の教育ではダンスが加わり、體操の先生はダンスの研究に忙しいといふことである、まことに喜ばしい情景である。

人生をうるおし、文化を高め、眞の文化社會をもたらす樣に純粹な正しい發達の遂げられる事を、吾大和民族のために心から祈る。子供の頃にリズムやダンスを習つて、やがて青年時代になつたら松竹や寶塚が好きになつた……といふのは困るのだが……そういふ所に出入するのがいけないといふのではない。

あんなのは馬鹿々々しくて見ちやいられないといふ樣な見識の高い青年をつくつてもらいたいのだ。

眞の文化人がたくさんゐる社會では劇場の演技も、もつと高い文化の表徵となる樣、改革されなければ見物人がなくなるという樣な時代の創造を企てる事を普通教育に於けるリズムやダンスの指導者に御願いしたい、過去の日本は戰爭する毎に大きくなり、兵隊が強いそして世界に大國として待遇された事であつたのだ、戰爭を放棄して專ら文化國として再建する他に希望のない我大和民俗の運命はなまやさしいものではない。

眞の紳士、眞の文化人となつて再び世界にまみゆるというからには相當な夢がなくてはならない、教育者は高い見識を備えなくてはならない、町の舞踊家の門を叩くにいそがしい等とは正に逆だ、學校の生徒を指導すると共に町の舞踊家をも指導する程の教育者が日本にもなくてはならない。

コロネールパーカー（スイス）は其著學校の品格の中で「教育者は世論に調子を合せるのではなく、世論の源を指導しなくてはならない」と。

さて吾がリズム都市の目的は此の眞文化人の創生にある。

子供のリズム感を滿足させるのではない、リズム感を醒し高め發達させなくてはならない、考へている事を表わさせる、それから更に、卽想像力を醒し創造力の發達をうながし、やがてダンス、音樂、體操ばかりではない詩の精神に通ずる道を開かなくてはならない。

普通教育に於けるリズムやダンスの教育はリズミカルなそしてダンスの上手な、そして心身調和がとれて、健康で、藝術的な……だけではまだ足りない、更に他の科學的教養と融合して詩的精神を生み新しい文化の創造に役立つ樣でなければならない、詩的精神とは、「事物の中心に直入する精神である、事物の關係を極限の單位に追いつめ、實相をつかみ、更に新を生む精神である、これが言葉に表われると詩となり、形をとれば美術となり、音波に乘れば音樂となる、およそ詩の精神を缺けば、諸藝術は碌々たる美の形骸に過ぎない——と……（高村光太郎氏著美について）

さて私をしてリズム教育の理想を此樣に考えさせたものはリトミックである。

リトミックの教育理想と方法とは今迄說いたところの凡ゆる問題をもらす事なく組織化している。

リトミックは日本には甚だ誤傳されているので私はこゝに確實に紹介したいと思う。

（二） リトミック

リズムと教育との關係を一つの教育法として組織立てた者はダルクローズのリトミックを以つて最初とする。

何はともあれ、リズム教育に關する限りリトミックを正しく理解することから始まる。

最初ダルクローズは音樂教育改革の爲に創案したのであるが、その手ずるをリズムに求めたが故にリズムの關する凡ゆる問題に發展する運命をもつていた、彼は音樂教育に專念しているがリズムの媒介に依り彼の弟子達によつて自然の內に體操や舞踊や劇や藝術一般にまで展開されたのである。

ウウィッマンの無音樂舞踊、ボーデーの表現體操、セルバのピアノのテクニック、デュディインの色のオーケストレーションや幾何學リズム遊戲等がそれである。

リトミックとは、子供の音樂性を醒しリズミカルな性格の向上を企てた新教育で心身のリズム運動によつて神經作用を整調し精神（音樂と肉體（技術）との調和と發達を助け想像力と表現力とを醒し創造力を發達させるものである。

リトミックの起りダルクローズは一八九二年からジュネーヴの音樂學校で作曲學を教えていた時、獨得な音感教育を考案した、此れが世界に於ける音感教育の元祖である、此處で特筆すべき事は音感教育に於いて充分な好結果を得たにもかゝわらず、なほかつ音樂的發達に充分でない事を發見した事である。

或る時子供が首や脚や全身をふり動かしながらピアノを奏くのを見た、又吾々の頭腦は耳を通して樣々な音の變化を正しくきくのであるが、それを再現する時には充分な效果が出

ない。此の二つの事實から音樂的發達は聽覺だけでなく、更に他の感覺、即ち全有機體の筋肉及神經の作用に依るものと考えて音樂をきいて直ちに肉體的に反應する樣な練習法を工夫した、此れがリトミックの起りである。

そして耳による音樂教育を不完全なものと確信し、運動能力と聽覺本能、音の調和と長さの調和、時と力、力と空間、音樂と舞踊等の各關係を研究の未完成されたのが今のリトミックである。

五十年も前に實驗によつて音感教育は音樂教育として不完全である事が明示されているのに四十年度の日本では完全なものゝ如くセンセイションを起していたのはどういうものだろう。

○リトミックの組織

リトミックの組織は次の三部門に分たれる。

聽覺才能開發の爲の
- リズム本能
- リズム體操
- 音樂感情
- 音樂基本練習
- ピアノ卽興法

(い) リズム運動　神經組織の分析に基き、全射のリズム感覺とリズム意識を覺す體操で最も重要な基礎教育である。

(イ) 肉體的リズム。時間空間中に於ける力と彈力との關係の知感と表現の資力及集中力と自發性等の發達から創造力へ。

(ロ) リズムの聽覺認知特殊な耳の訓練法に依り、音の強さ、長さの色合の鑑賞と表現力及其集中力と自發性の發達から創造へ。

(ろ) 聽覺訓練。聽覺才能の訓練は音の高さと和音と音質に對する感覺、メロデーと和音の結合を心で聽き心で演じ、創作にまで進む。

(は) ピアノ卽興法。リズム體操と聽覺訓練の結合を音樂に具體化してた卽興法は、タッチの方法によつて運動觸覺意感を醒し旋律的、和聲的、リズム的性質をおびた音樂的思想をピアノで實驗することを教える。

附　造型力を醒す練習法。肉體のリズム運動に繪畫的、彫刻的美しさを創造する爲に工夫されたものである。又展覽會場の繪畫や彫刻を觀て心の中で之れにリズムを付けて踊らせる事を學び、やがて創作にまで。

以上がダルクローズ法の全課程である。

私は今こゝまで書いて來てあの頃を追憶し、其の文化內容の豐さ、崇高さに、二十餘年も過ぎた今も情熱を再び新にし日本の現狀のあまりにもミジメな貧弱さに限りなきさびしさを感ずる、他方ほのかに傳え聞く新しい保育方針に又新しい希望が湧いて來る。

○リズム體操の實際

(イ) リズム運動は常にピアノに合せた步行から出發する（幼稚園の最初の出發は大鼓の方がよい）音樂に於ける強さと長さの色合の凡ゆる關係は悉く肉體運動におきかえる事が

出來る。音樂がだん〳〵早くなれば歩行もだん〳〵早くなり、リターダンドになれば歩行もだん〳〵緩かになる。

ピアノが強くひかれると歩巾が大きくなり、弱くひかれると歩巾が小さく輕く歩かれる。ピアノが四分音符で奏されると散歩の如樣に二分音符になれば散歩の二倍のゆるやかさで歩かれる。

ピアノにアクセントがつけば脚はするどく踏まれレガードの時は動作も軟くねばる。

音の強さと長さのリズムは歩行で表わし、アクセントの配置即ち拍子は腕の運動で表わす。

脚は音樂の強さと長さの通りに歩くと同時に腕は音樂の拍子に合せて拍子をとりながら音樂の表情に合せて歩行することから始まる。後には音樂に合せることだけではいけない。音樂リズムに對立させたり、種々なリズムを包括したり、創作したりする。

（ロ）肉體運動の技巧。運動の技巧は重力の關係を主として自然動作と音の質（レガードとスタッカト、協和音と不協和音）等の表情法、四肢の統御の訓練としては腕と脚、或は右手と左手、或はピアノと動作と等、速さの異なる、或は強さの異なる運動の處置、例えば右手が強く左手を弱く同時に運動すること、或は脚が二拍子で同時に腕は三拍子で動作する等。

（ハ）リズムの聽き方と書取り。ピアノ或は大鼓の音をきいて直ちに肉體運動に表わすことを書取りという、後には音符に書取る。

（ニ）即興運動及集團指揮。リズムを自分で作つて即興表現する、又集團のリヅムや動作を指揮する、オーケストラやコーラスの指揮に準じた方法で行われるもので從來日本の體操や遊戯の指揮或は指導とは全く異なる。

（ホ）ポーズの研究。此れも且つて日本には全くなかつた方法である。先づ二十のポーズの原形がある、それを左右の腕で同じに行われたり、左と右で異なる組合せで行われたり、立つて行われたり、すわつて行われたり等樣々に研究されて後には自由に創作される。次いで甲乙二人で組んで甲が自由なポーズをすると乙はそのまねをする、次にはまねをしてはならない、なるべく反對な事をして對立を企てる、次いで集團と集團で對向する等、これはやがて群舞にまで發展する。かくして次から次へと方法が發展し想像力創作力が發達しないではいられない樣に企てられている。

（ヘ）リズム遊戯等。

○音樂基本練習法の實際

リズム體操が少し進んでから音樂基本練習に移り各種の音階の中でいろ〳〵なリズムを唱つたり、そのリズムの應用によつてメロデーを作つたり、メロデーの表情法や樂句の句切り方、音程、アクセント、和聲、轉調等音樂一般の法則に精通する樣に計畫されている。

私は日本に於ける長年の音樂基本練習法と異なるやさしく

て面白い練習法の工夫のたくみなる事に毎時興味をそゝられながら研究を續けた事を二十餘年も過ぎた今日猶印象を新にする。

○ピアノ卽興法の實際

これはリズム體操でリズムがわかり、音樂練習で音樂の諸法則がわかると、その合成から生れる自發的作曲の實習である。

生徒はピアノの前に着席する、先生は指揮者としてその前に立つ。指揮者の示す表情に從つてピアノを奏く。

さて私はリトミック專門學校（師範科）の三年間の課程を數頁に縮めて書いて見たので此れは教師の爲の訓練項目であつた。幼兒教育に適用されるリズム教育は此の中から新に工夫して組織しなければならない。基礎教養の深く高い教育者に依つてのみ深遠にして素朴なる具體案が創作される。

○再刊

倉橋惣三著『幼稚園雜草』

（定價一八〇圓）

東京都文京區本郷元町

乾元社發行

集ろう。第二回全國保育大會と講演及び講習會へ

主催。全國保育連合會

期日。七月二十七日から同三十一日まで

會場。奈良女子高等師範學校講堂

會員。國、公、私立幼稚園及び保育所の從事者

會費。金百圓

宿泊。奈良女子高等師範學校寄宿舍

（七月二十日までに宿泊日程と共に人數明記申込。一泊三食付約一五〇圓乃至二〇〇圓。主食携帶）

申込。七月二十日までに、奈良市東向北町奈良女子高等師範學校附屬幼稚園內第二回全國保育大會事務局宛、氏名、宿所、勤務先明記の申込書に會費を添え書留郵便で送附のこと。